

清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 第3回会議 議事要旨

日時	平成28年2月5日(金) 午前9時30分～11時30分	場所	清洲庁舎2階 202会議室
出席者	推進会議委員	内田委員（中京大学経済学部客員教授）【座長】 山本委員（清須企業懇話会幹事） 富田委員（愛知県教育委員会文化財保護室室長） 北山委員（愛知県立新川高等学校校長） 舟橋委員（愛知医療学院短期大学学長） 山田委員（中日信用金庫理事長） 平野委員（日本労働組合総連合会愛知県連合会尾張中地域協議会副代表）	
	清須市	副市長、教育長、企画部長、事務局	

1 開会

- あいさつ（副市長）

2 議題

(1) 清須市人口ビジョン（案）及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について

- 資料説明（事務局・忠内副主幹）
- 委員意見・座長総括（各委員、内田座長）

①基本目標1・2の「数値目標・KPI」について

山本委員	数値の設定根拠には説明が必要ではないか。ストレッチした目標が無理なく達成できるものかを知りたい。施策の順位付け、何を優先するかをはっきりさせるべき。
富田委員	目標値の設定が控え目に感じる。若者が子育てしやすいまちの施策、妊娠・出産や放課後児童クラブ等の施策や目標は、これが適正といえるのか。シビックプライドやインバウンド等は、わかりやすい注釈説明が欲しい。
北山委員	目標値は、何が何でも目指すべきものか、確実にクリアできるものかの整理が必要。サービスに係る施策は、受け皿確保も合わせて考える必要がある。
舟橋委員	目標は施策の内容によってメリハリをつけるべき。清洲城の目標値には意気込みが感じられない。放課後クラブの増加目標は疑問、その他幾つかの目標は精査をして欲しい。
山田委員	目的と数値の位置付けが逆にならないように、何のために数字を達成するのか、最終的には、熱い思いの実現という目的を忘れてはいけない。目的の達成には情報共有と工夫が大事である。実績をベースにすると控え目な目標となるが、チャレンジも必要である。
平野委員	目標値の妥当性、達成の容易さ困難さ等、数字の考え方を知りたい。

【内田座長総括】

戦略全体のけん引役となる清洲城は、インバウンドも意識した積極的な活用を図り、目標も意欲的に設定すべき。施設単位のマクロの視点から精査して欲しい。定量的な目標も重要だが、定性的な側面、質的な部分も重要である。目標を確実に達成のため具体的な施策とのつながりにも留意すべきである。

②基本目標3・4の「数値目標・KPI」及び進行管理について

山本委員	目標1はストレッチで、2～4は手堅く設定してよいのではないかと。同じ公共交通で、コミュニティバスとレンタサイクルの位置付けが違う点が、一般には理解しづらい。
富田委員	若者向け施策③の説明文には重複感がある。シニアの目標値は清須学講座・マイスターのどちらが適切か再考して欲しい。非常時消防の用語が判りにくい。
北山委員	清須学講座・マイスター認定は市民向けのものか。認定後の活用も意識して欲しい。学校では既に多数の高齢者が活躍しており、活動の場となりうる。あしがるバスの認知度は、市民であっても100%は難しいのか。
舟橋委員	高齢化が進展する中でシルバー人材会員数が減少する等、現状の背景にある要因を知ることが必要。あしがるバスも認知度の高さと裏腹の利用状況の要因（便数、ダイヤ等）を把握すべき。PDCAサイクルのチェックに該当する。協働拠点・体制は、目標が検討という表現では本気と感じられない。官学連携は、らく楽教室以外の連携もある上、拡大させていきたい。
山田委員	市民の目に触れ、目標達成への緊張感も必要。要介護認定率の抑制という表現は、思わぬリスクとなる恐れもある。限られた予算でもシニア人材の活用等工夫の余地はある。
平野委員	数字の刻みが細かい目標があるが丸めてもよいのではないかと。長寿命化を図る具体的な公共施設は何か。推進会議の今後の運営に関して、具体的なスケジュールはあるのか。

【内田座長総括】

目標値の設定は、全体としてはメリハリをつけ、目標によっては大掴みな数値でもよい。基本目標1では、野心的な設定が求められる。多数の参加者を目標に据える上では、シニアと若者層の交流といった視点も一考すべきである。ハードだけでなくソフトの仕掛けづくりも重要である。あしがるバスや朝日遺跡は、内外の来訪者も意識し、ウェブやアプリによる情報発信を図るなど工夫の余地もある。

(2) その他

- 4回戦略提言会議の日程について

3 閉会